

シリコンバッグ豊胸術とは

シリコンバッグ豊胸術とは、バストに人工のシリコンインプラントを注入することでボリュームアップさせる手術です。腋下または乳房下縁を切開し、乳腺下または大胸筋下にシリコンバッグを挿入していきます。

使用するシリコンバッグは患者様のご希望をヒアリングの上、医師が個々の骨格や身体の状態を判断した上で適切なサイズのものを選定します。シリコンバッグは元々人間の体内に存在する成分でできているため安全性が高く、安心して手術をお受けいただけます。

シリコンバッグ豊胸術をお受けいただけない方

妊娠中の方、または妊娠をご検討されている方、授乳中の方、麻酔剤アレルギーの方、体調が優れない方やその他の理由によって医師が不可と判断した場合は、シリコンバッグ豊胸術はお受けいただけません。

シリコンバッグ豊胸術の持続性

シリコンバッグ豊胸術は半永久的に効果が持続します。バストを切開し、直接シリコンインプラントを挿入していく手術のため術後元に戻ってしまうことはありません。

シリコンバッグ豊胸術後の状態・ケアについて

- ・豊胸手術後は、固定のためのバストバンドを3日間付けたままにさせていただきます。その間は洗髪、洗顔などは可能ですが、バストバンド付近を濡らさないようにしてください。数日経過すると短時間であればバストバンドを外せるようになるため、シャワーで身体を洗っていただけます。シャワー時はバストバンドを外してください。

- ・抜糸以降、バストバンドが取れば入浴可能です。術後1週間程度は血流が良くなることでの刺激を防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。

- ・ブラジャーを着用いただく場合は、締め付けのないノンワイヤーや緩めのスポーツタイプなどのなるべくやさしいタイプの下着が望ましいです。術後1ヶ月程度は下着や洋服で胸を締め付けたり、強く揉む・大きく動かすことのないよう、できる限り胸に負担をかけないよう充分注意して生活してください。

- ・軽い運動は1週間以上、激しいスポーツは1ヶ月程度お控えください。

- ・経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し、患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。

1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

シリコンバッグ豊胸術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

胸の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1～2週間ほどで腫れは引いていきます。

【感染】

挿入後、熱を持ったり赤みが出て痛むようなときは、挿入部位が炎症を起こしている可能性があります。感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。

場合により抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性がありますので、違和感がある際はクリニックまでご相談ください。

【しびれ、麻痺】

手術により非常に細かく小さい神経を切ることがあり、術後痺れや麻痺などの違和感が残る可能性があります。多くの場合は3～4ヶ月で回復します。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【シリコンのずれ】

術後、バッグが意図せず外側や上方に移動してしまうことがあります。バッグが正常な位置に定着するまでの間、上肢の可動域制限を厳守し、またバストバンドを着用していただきます。ブラジャーの着用は医師が許可するまでできません。

【被膜拘縮】

シリコン挿入後、バッグ周囲に被膜が形成されます。その被膜が厚く硬くなったり、収縮を起こすことを被膜拘縮（カプセル拘縮）といい、被膜拘縮を起こすとバストが硬くなったり、丸く変形したりします。拘縮具合は体質により大きく程度が異なりますが、場合によりバッグの抜去や入れ替えなどの処置を余儀なくされることがあります。

【バッグの変形、破裂、損傷】

シリコンバッグ挿入後、様々な要因によってシリコンバッグが体内で破裂することがあります。万が一破裂などが生じた場合は、なるべく早く抜去する必要があります。

【医療行為成績と医療行為後の予測】

乳房インプラントによる乳房増大術は体の他の部分に新たな傷がつかず、体への負担が少ない再建方法です。しかし、乳房インプラントは人工物なので、人工物挿入に特異な不具合や合併症を起こすリスクがあります。

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会の2018年度乳房再建用インプラント年次報告によると、乳房インプラント挿入術後の合併症は、4.8%（313/6582件）あり、うち抜去・入れ替えを要した症例は0.8%（53件）でした。合併症の内訳は、感染1.0%、血腫・出血・漿液腫1.7%、皮膚壊死・創部離開・被膜拘縮0.4%、インプラント破損0.09%、その他（位置異常・露出・陣痛など）1.6%でした。特に放射線照射を行った後の乳房増大術については合併症の発症リスクが極めて高く、注意して経過観察を行う必要があります。

また、特殊な合併症として、ブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫（BIA-ALCL）という血液のがんが報告され、現在発表されている海外における BIA-ALCL の発生頻度は、テクスチャードタイプ全体では約2,200-86,000人に1人の割合とされています。

乳房インプラントによる乳房増大術は事故検診と定期的な診察（当院では最低1年に1回を推奨しています。）が重要です。